



CONTENTS

* 連携型共同研究助成募集

* カモミール月曆

* 連携型共同研究成果報告会

* キャリアパス支援講演会

* 社会活動演習

* 保育園たより

 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

連携型共同研究助成募集

本制度は、2015年度に採択された科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（代表機関：岐阜大学）の一環として、同事業の共同実施機関（岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社）、および岐阜県内の女性研究者の研究力向上を図り、研究者同士の交流・地域への定着、さらには上位職登用につながるような「地域循環型研究者育成」をめざして実施するものです。

この研究助成制度では、**すでに実用化段階（特許、企業による製品・商品化、成果の出版等）**になっている研究に対して、**必要に応じてその実用化までの研究費用を支援する**ものです。共同研究の成果がある程度出ていて、その実用化（特許、企業による製品・商品化、成果の出版等）にいたる段階が具体的に示されている場合に限り、その研究費の全額・あるいは一部を支援します。

申請受付期間： 2019年3月4日（月）～3月19日（火）午後4時必着
助成金額： 1件あたり 20万円～80万円程度

申請者要件

- 岐阜大学に所属する女性研究者（研究分野を問わない。特任教員・医員を含み、学生・院生・研究員である者を除く。）
- 共同研究者に共同実施機関（岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社）に所属する研究者（原則として女性）が、1名以上含まれていること。共同研究者には、岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社以外にも、他大学・企業との共同研究も歓迎する。
- 他の研究支援・外部資金（科研費）等との重複申請は認められるが、この研究助成でどの部分を負担するのかを明確にすること。

ご応募を検討される方は、男女共同参画推進室WEB<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/news/477.html>で募集要項をご確認の上、申請書をご提出ください。申請書は上記WEBからダウンロードできます。（学内限定）

カモミール月暦 (室長からのメッセージ)

副学長(多様性人材活力推進担当) 林 正子

平成30年度「清流の国ぎふ女性の活躍推進会議」検討委員会合同会議

2019年1月28日(月)、岐阜県女性の活躍支援センター(OKBふれあい会館)で岐阜県子ども・女性局が主催する「清流の国ぎふ女性の活躍推進会議」検討委員会合同会議が開催されました。「M字カーブ底上げ検討委員会」「女性管理職登用検討委員会」「女性の活躍総合支援体制検討委員会」の3検討委員会合同の会議の冒頭で、性別による固定的な役割分担意識が根強いこと、M字カーブの底が深いこと、女性管理職比率が全国最低であることなど、岐阜県の現状が確認され、具体的に、

- ① 「清流の国ぎふ女性の活躍推進計画」の取り組み状況
- ② 「女性の職業生活における女性の活躍の推進に関する法律」の見直し
- ③ 「清流の国ぎふ女性の活躍推進フォーラム」の開催

をおもな議題として、合計20名の委員による意見交換がおこなわれました。私自身、「女性の活躍総合支援体制検討委員会」の委員を務めており、岐阜大学構成員の皆さんに職場やご家庭で何らかの参考にさせていただければと願ひ、会議の一部をここにご紹介いたします。

- ① 「女性活躍推進法」第6条の規定にもとづき「清流の国ぎふ女性の活躍推進計画」(2016~2020年度)を策定している岐阜県では、子ども・女性局が中心となり、

- (1) 女性の活躍推進に向けた組織風土づくり
- (2) ワーク・ライフ・バランスの実現、働き方改革の推進に向けた環境整備
- (3) 女性の希望に応じたキャリアアップに向けた支援

を趣旨として、さまざまな取り組みが展開されています。諸事の実施状況を確認するなかで、岐阜県では男性の育休取得率が低い(2017年雇用均等基本調査 全国5.1% 岐阜県2.3%)ことが改めて浮き彫りになり、男性の育休取得率の向上に向けた取り組みや、男性の家事・育児・介護等への積極的な参画を推進する取り組みの重要性が議論されました。

- ② 2018年6月15日閣議決定された「骨太方針2018」「未来投資戦略2018」に、「女性活躍推進法」の見直しに着手し、改正内容について今年度結論を得ることが盛り込まれたことを受けて、国では、次のように「女性活躍推進法」の見直しが検討されていることが紹介されました。

- 一般事業主行動計画の拡大強化
 - ・ 行動計画策定岐阜の対象企業の拡大 301人以上 → 101人以上
- 情報公表の促進
 - ・ 情報公表義務の対象企業の拡大 301人以上 → 101人以上
 - ・ 情報公表項目の見直し
 - a. 職業生活の機会の提供に関する項目
 - b. 職業生活と家庭生活との両立に関する項目に区分し、各区分から1つ以上情報公表することを義務化
 - ・ 情報公表の適正化を確保するため、勧告違反の場合の企業名公表制度の創設
- えるぼし認定の見直し
 - ・ より水準の高い「プラチナえるぼし」(仮称)認定を創設し、「プラチナえるぼし」取得企業は、行動計画策定義務を免除。



- ③ 「清流の国ぎふ女性の活躍推進フォーラム」(主催:岐阜県、清流の国ぎふ女性の活躍推進会議)が開催されることの内案がありました。3月19日(火)13:00~16:00 岐阜都ホテルにて、(株)イー・ウーマン代表取締役社長、佐々木かをり氏による基調講演「企業力を高める女性活躍~ダイバーシティが成長のキーワード~」や「ぎふ女のすぐれもの」認定式がおこなわれます。プログラムの詳細は、<http://gifujo.pref.gifu.lg.jp/event/190319jokatu-forum.pdf> をご参照ください。

ロビー会場では、岐阜県図書館との連携によって、下田歌子、花子、川上貞奴ら明治期に岐阜県で活躍した女性の企画パネル展も開催されます。ご関心のおありの方は、どうぞぜひご参加ください。

連携型共同研究成果報告会

2月26日、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」2018年度連携型共同研究成果報告会が岐阜大学にて開催されました。実施機関である岐阜大学、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社から助成を受けた8研究課題に携わった研究者が、これまでの研究成果についてパワーポイントを用いながら1課題につき10分間の報告をおこないました。

各報告の後、岐阜大学から森脇学長および野々村修一理事・副学長、岐阜薬科大学から原英彰副学長、岐阜女子大学から松川禮子学長、アピ株式会社から野々垣孝彦社長が、それぞれ研究成果についてご講評くださいました。

会場には共同研究者や学生、教職員、報道関係者など51名の方々にご参加いただきました。全体を通じて、2015年度から始まった本事業の研究成果の蓄積を感じさせる充実した内容の報告会でした。



岐阜大学では、2019年度連携型共同研究の応募を受け付けております（3月19日締切）。募集要項および申請書については、ニュースレター1面および男女共同参画推進室ホームページをご覧ください。
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/news/477.html>

キャリアパス支援講演会

2月1日（金）、岐阜薬科大学においてキャリアパス支援講演会「個別化治療を目指した新薬“アレクチニブ”の研究開発—ダイバーシティ実践による製薬企業での夢の追求—」が開催されました。

講師である青木裕子エーザイ（株）癌領域ポートフォリオマネジメント部シニアディレクターが、近年の高額な薬の費用対効果に対する関心の高まりや個別化による薬剤開発成功率の向上などに言及しつつ、選択的治療による効果の実証例について紹介しました。また、癌細胞の遺伝子異常における創薬研究について、ご自身が開発に携わった新薬「アレクチニブ」の研究開発から承認に至るまでの過程について詳細なデータに基づいて説明しました。さらに、近年は肺癌の類型化が進んでおり、選択的治療で効果を上げるためにはどのタイプの肺癌であるかを血液検査などの簡易な方法で診断する必要性が高まっており、そのための研究が進んでいること、将来的には未発症段階における投薬によって発症を予防する可能性があることについても言及しました。

最後に、ご自身のキャリアの原点である「薬を作りたい」という夢、性別や国籍、部署や地位など多様なメンバーの特性に配慮したチーム運営、そしてご家族のことなど、性別を問わず研究者のキャリアパスを考える上で参考になる有意義な講演会となりました。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」
 岐阜大学キャリアパス支援講演会

第10回青森・創薬研究センター教育フォーラム
 個別化治療を目指した新薬“アレクチニブ”の研究開発—ダイバーシティ実践による製薬企業での夢の追求—

講師 青木 裕子氏 エーザイ（株）癌領域ポートフォリオマネジメント部シニアディレクター

日時 2019年 2月1日（金） 15:00～16:30

会場 岐阜薬科大学本部 第二講義室

会費 無料

お問い合わせ先
 岐阜大学 男女共同参画推進室
 〒500-8702 岐阜市学芸町1-1
 TEL 057-744-2100
 E-MAIL gifu@u-gifu.ac.jp

社会活動演習



2月16日(土)、7年目を迎えた、地域科学部「社会活動演習」(担当:近藤真庸教授)子育て支援プロジェクトによるイベントが開催され、0歳から12歳までの子ども21人と父母など12人が参加しました。

7年連続で参加してくれた子(9歳)、昨年はお母さんに抱っこされていた子(2歳)、放課後の障がい児クラブの子どもたち(9人)と指導員(3人)など、参加者は、2時間30分、学生が企画したプログラム(歌、ゲーム、工作、パンケーキづくり体験)を、時間を忘れて楽しんでいました。

参加者からは、「来年もやってほしい!」「また参加したい!」という声がたくさん寄せられ、本番までの9ヶ月間、自分たちだけで準備してきただけあって、学生たちは達成感とたくさんの学びを得たようです。



来年は、いよいよファイナル。新1年生のプロジェクトメンバーは、6月に発足します。

保育園たより



つばめ



かもめ



ひよこ



すこやか



岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL: 058-293-3397 FAX: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。